



## 帰郷広報で学校の魅力を受験者に



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は1月8日（金）、静岡募集案内所内（静岡市）において、陸上自衛隊高等工科学校2年・繁田航史生徒の帰郷広報を実施した。

繁田生徒はチャコールグレーを基調とした同校の制服に身を包み、高等工科学校を目指す中学生に、日々の授業や同期の絆を育む年間行事、入学から現在までの生活などについて分かりやすく説明を行った。

また、卒業後のキャリアプランについて、ほとんどの生徒が進む陸曹として活躍するコースのほか、防衛大学校へ入学後、幹部自衛官として活躍するコースや、航空学生として入隊後、航空・海上自衛隊のパイロットとして活躍するコースなどを紹介。同校の受験対策や心構えなどもアドバイスし、中学生からの多くの質問に親身に答え、不安を払拭した。

話を聞いた中学生は「高等工科学校のことが詳しくわかり、安心感が増しました。必ず入学できるように、試験に向けて頑張ります」と決意を新たにしていた。

静岡地本は、休暇等で帰省する隊員等と連携を図り、事務所内で行う説明会を通じて自衛隊の魅力を発信していく。



## 部外講師を招き、広報官職能強化トレーニングを実施

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は1月21日（木）、ツインメッセ静岡（静岡市）において、山梨地方協力本部と合同で広報官の職能強化トレーニングを実施した。

今回は部外講師による教育を通して職能向上を図り、今後の業務の質とするため、両地本の広報官4人が参加した。

講師として株式会社マイナビパートナーの平尾英治氏を招き、初めに大学生就職意識調査のデータをもとに、新卒求人倍率の推移、学生側の就職観の変化、就職先の決め手になった項目などについて説明を受けた。近年の学生の会社選びの基準を数字で見ることができ、広報官はそれぞれ熱心にメモを取っていた。



また、平尾氏は、学生とのコミュニケーションにおいて、雰囲気作り・共感、相手への気遣い・前向きさ・正直さを挙げ、「広報官は学生の立場に立ち、学生は何を知りたいのかを先読みして伝えることが重要」と説いた。

次に、広報官が事前課題としてまとめた防衛省の任務や働きやすさ、自身のやりがいなどを、グループに分かれて発表した。発表後、平尾氏は「学生の気持ちや動きやすさを大切に話すこと」と話し、面白く、相手の心が動くように話すことと話し、実際に表情を変えたり、身振り手振りを加えて実演し、広報官にコミュニケーションのコツを伝授した。研修を終えた広報官は「新たな発見もあり、明日から実際に実践していきたいと感じた」と、今後の広報活動に活用しようとする意欲を見せていた。静岡地本は、今後もこのような研修を通じて個人の知識技能の向上に努めていく。

## 展示物品に空自の被服が仲間入り

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は1月26日（火）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）に所在する第1航空団整備補給群補給隊から、イベント等で展示する航空自衛隊の被服を受け取った。

静岡地本は、県内各地で開催されるイベント等で広報ブースを開設し、陸・海・空自衛官の制服などを展示している。今回、展示物のパリエーションを増やし、自衛隊のさまざまな仕事に興味を持ってもらおうと、同基地と調整し航空自衛隊の被服を展示用として長期間借用する運びとなった。

借用したのは、パイロットが航空機に搭乗する際に着用する航空服（夏用・冬用）や航空ヘルメット、作業服のほか、寒冷水域での不待着水時にウエットスーツのような役割をする耐水服と耐寒服、高速飛行中の高い加速度（G）への耐性を増加させる耐G服など合計13点。

これらの被服は今後、イベントの際に静岡地本の広報ブースで展示するほか、イベントに先立ち静岡募集案内所で航空服や航空ヘルメットなど数点の展示も予定している。

静岡地本は、これからも部隊等の協力を得て、実際に触れられたりできる実物の被服等を活用し、多くの県民に自衛隊に興味を持ってもらえるよう、広報活動を実施していく。

